

# リオデジャネイロの治安状況及び安全対策

## 1. ブラジルにおける脅威とは

### (1) 脅威の種類

- ・ 戦争
- ・ テロ
- ・ 一般犯罪

### (2) 一般犯罪とは

一般犯罪は、各種脅威の中で最も頻繁に身近で発生する脅威です。一般犯罪の形態のうち最大の脅威は、生命の安全を脅かす「殺人及び傷害、脅迫、暴行等の暴行行為」及び「営利誘拐」です。

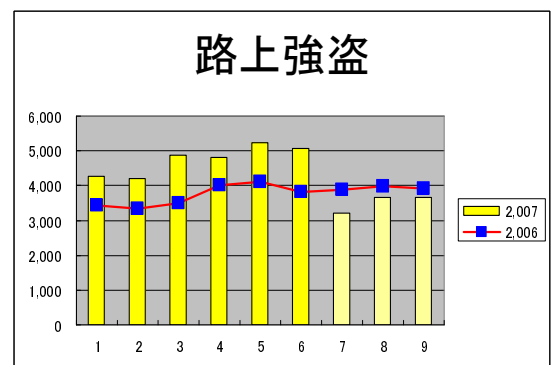
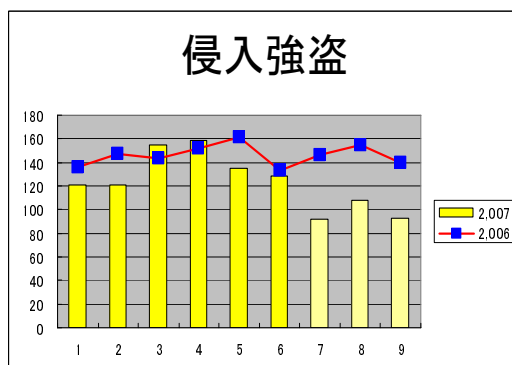
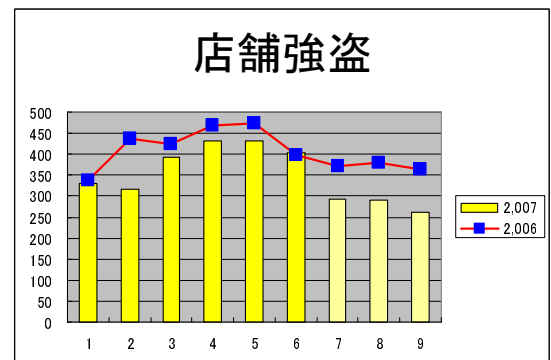
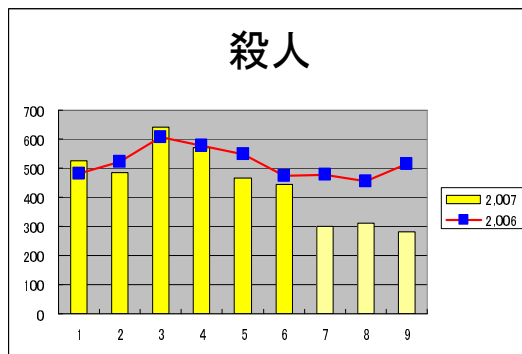
一般的に、現地で怨みを買うことがない限り相手を殺害あるいは傷つける目的で賊が住居に侵入することは少ない。

ほとんどの場合は、金品の強奪を目的とする賊が住居に侵入し、その2次被害として殺害あるいは傷害を生ずるケースである。

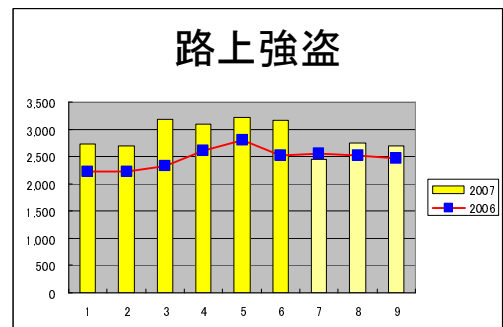
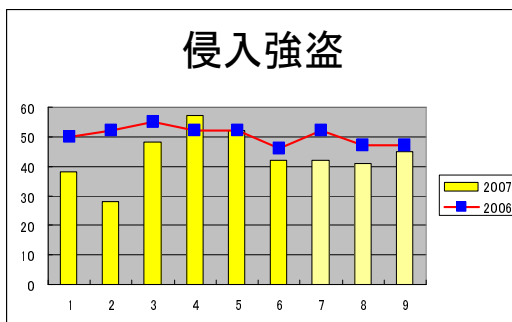
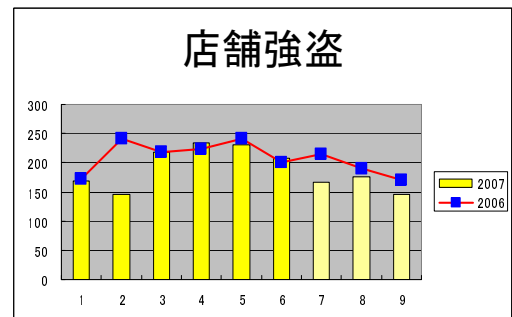
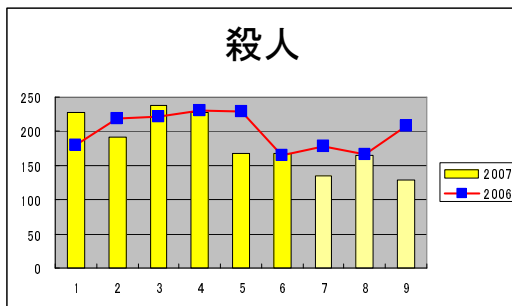
このため、賊の侵入を困難にする住居の安全対策及び出勤・帰宅時を含む移動時の安全対策を確立することが重要となる。

## 2. 犯罪等の状況

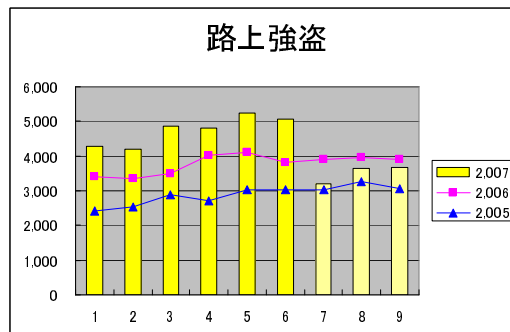
### (1) リオデジャネイロ州の主な犯罪情勢



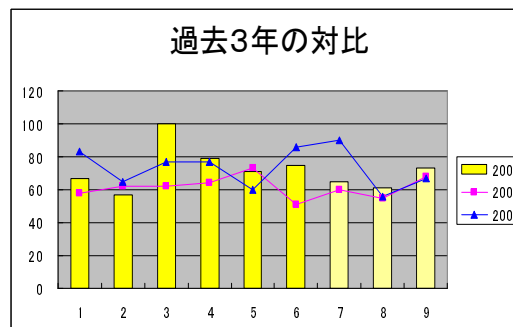
(2) リオデジャネイロ市の主な犯罪情勢



(3) 特に路上強盗の増加が顕著



(4) リオデジャネイロ市における交通死亡事故



(5) 犯人の死亡

2006年1～6月	520人
2007年1～6月	694人 (+33.5%)

(6) 逮捕者数

2006年1～6月	9,051人
2007年1～6月	6,919人 (-23.6%)

(7) 犯罪等の特徴

イ 5月に発生した路上強盗事件は、5,232件であり過去16年で最高を記録した。

ロ 交通死亡事故の増加

1～6月 449件 (対前年比+21%)

ハ 警察による作戦が多いため、銃撃戦中の死亡率が高い(1日に3人くらいが死亡している)。

3. 身近な事件の発生について

- ・ 5/18 (水) AM6:25ころ  
プライア・ド・フラメンゴ通り～ (銃撃被害)
- ・ 5/31 (木) PM0:30ころ  
サンタクルス地区サンタクルス大通り～ (機関銃使用強盗)
- ・ 7/10 PM6:00ころ  
コパカバーナ地区アトランチカ大通り～ (銃使用強盗)
- ・ 9/4 PM6:00ころ  
フラメンゴ地区オズワルド・クルズ大通り～ (銃使用強盗)
- ・ 9/8 午前  
コズメ・ヴェーリョ地区～ (強盗被害)
- ・ 9/20 午後  
フラメンゴ地区アウランテ・マンダレ通り～ (銃使用強盗) ほか

4. 邦人の被害状況

- ・ 2007年1月～9月
- ・ 被害者数 計77人
- ・ 内訳
  - 窃 盗 42件
  - 路上強盗 27件
  - その他 8件
- ・ **2006年～38件45人**

- ・ **2005年～40件45人**

- ・ **2004年～39件45人**

## 5. 住居安全対策の基本

### (1) 自分の身は自分で守る

地域によっては、頼るべき治安機関もあてにならないこともあり、何よりも自分と家族の安全は自分たち全員で守るとの心構えが極めて重要です。

### (2) 予防こそが最良の危機管理

「予防」こそが最良の危機管理であることを肝に銘じ、そのための努力を惜しまない。

### (3) 「安全のための3原則」

「目立たない」、「行動のパターン化を避ける」、「用心を怠らない」が安全に生活するための3原則となる。現地の文化、風俗、価値観を十分考慮した上で行動することが望ましい。

### (4) 現地に早く溶け込む

隣人、コミュニティや在留邦人といった様々な形で情報や援助を差し伸べてくれる個人や組織と安全確保のためのネットワーク作りを心掛ける。

### (5) 「精神衛生」と「健康管理」

油断が生じないように必要なときに緊張し続けるのも精神と健康のバランスが保たれてこそといえる。

## 6. 車の運転に関する安全対策

会社等への出勤は当然のことながら、買い物一つ例にとっても、車が必要な場合が多く、車の運転に関する安全対策も住居の安全対策同様に極めて重要です。

### (1) 車両運転中における強盗は、82%が運転手側、12%が助手席側、6%はその他のドア

信号で止まるときは、運転手側から襲われないように隣の車との間隔を狭くする。

### (2) バイクに乗っている者が突然、「シートベルトがドアの外に出てる」など告げ、ドアを開けた瞬間犯罪を犯すケースがある。

この場合、その場ではドアを開けずOKのサインをするなどして場所を変えてから確認する。

### (3) 赤信号等で横断歩道の手前で止まる場合、横断歩道より2～3メートル手前で止まる。犯罪者は、横断歩道を渡るふりをして車に近づき強盗を行うことがある。

### (4) 万一、前の車が強盗被害に遭っているのを目撃しても、絶対クラクションは鳴らさない。

逆に犯罪者に襲われることがある。

- (5) 車にバックやノートパソコンを積む場合、外から見えない場所に置くこと。

交差点で飴や飲料水などを販売している者がいるが、彼らは車の中を覗き込み高価な物があれば車の天井にガムなどを付着させ他の場所で待ちかまえる仲間への目印としている。

- (6) その他一般的な注意事項

- ・車の点検
- ・燃料の点検
- ・乗り込む前に、車の外周、下、車内に異常がないかその都度確認
- ・車の乗り降り、駐車場から幹線道路に出るまでの間が、最も危険度が高く狙われやすいので不審な車や人物が周囲にいないか注意する。
- ・路上駐車はできるだけ避ける。短時間であっても駐車の際はドアロックし、車内に貴重品を置かない。
- ・走行中は全てのドアロック、窓も閉める。貴重品は外から見える位置に置かない。
- ・毎日同じ時刻に同じ通勤経路を使用することは、一般犯罪のみならずテロ及びゲリラにも狙われやすいので、行動パターンを変えることも必要。
- ・出先の道路事情についても、前もって調べておくことが肝要。
- ・地域特性を踏まえ、交通ルールを守り、安全運転を心掛ける。

## 7. 一般生活における注意事項

- (1) 出勤時間及び退社時間は毎日変えること。

銀行から送られてくる明細書や雑誌などに貼られてくる住所のラベルは、裁断するか生ゴミと一緒に捨てる。水分で印刷部分が溶け判読できなくなる場合が多い。

- (2) 不審電話に注意する。犯罪者は無作為に電話をかけ電話会社などと名乗り電話のプッシュボタンを押すように電話の操作を指示してくる。それに応ずると盗聴や電話転送等の犯罪に巻き込まれる可能性がある。

※電話会社は電話の操作を指示しない。

- (3) 門番への教養を行うこと。

警戒する位置や態度等詳細に指示し、緊張感を持たせる。

家屋に対する侵入強盗犯の中にはアウディやBMW等の高級車で家屋に乗り付けている場合がある。侵入の手口は、家屋に入る車両の後続につけ、その車と同時に入る。

門番は、見知らぬ車であっても高級車であるため傷をつけまいと直ぐに門扉を閉めない。このような手口があることを教養することも必要。

- (4) 財布の中に銀行からの明細や現金自動支払機からの明細書を入れておかないこと。短時間誘拐された場合、犯罪者は口座残高を確認し犯行に及ぶ。
- (5) 犯罪者は現金自動支払機で現金を引き出している者をターゲットにしている。犯罪者はショーウィンドーの外から物色している。現金を引き出したか否かはその仕草で分かります。

例えば：

女性の場合

店内に入るときはバックをぶら下げて入り、出るときはバックを大事な物として抱きかかえるように出てくる。

男性の場合

ポケットに現金を入れる仕草で分かる。

- (6) レストランでカード支払いする場合  
ボーイがカードのデータを盗んだり、別のカードとすり替えたりしないか注意すること。また、戻されたカードが自分のものであるか必ず確認すること。

## 8. 歩行中における注意事項

- (1) 狙われていると感じたら演技すると良い。

例えば

イ 見知らぬ他人に大声で親しげに話しかけ友人と一緒にいることと思わせる。

ロ 精神異常者のふりをし、突然電柱や看板に大声で話しかけたり、訳の分からないことを言ったりすることも

- (2) サングラスの効能

視線がどこに向いているのか分からず犯罪防止に有効である。

## 9. 空港（特に国際空港）での注意事項

リオ国際空港では置引きが多発している。

多くの荷物を携行して入国する場合は、特に注意。

警察当局では国際空港で暗躍する強盗グループの取り締まりを行ってはいないものの安心はできません。

強盗グループは、空港に到着しためぼしい被害者を選定したうえ、他のメンバーと連絡をとりつつ、空港から市内へ移動途中を狙う。この種の被害を避ける為、華美な服装を避けるとともに、貴金属等は身につけないことや到着時でも出発階を利用して車に乗るなどの防衛手段が必要。

まず、一般犯罪対策に万全を期し、継続する。

ブラジルの治安は決して改善していない。しかし目前で発生していないので  
実感しない場合が多い。

これまでは、運が良かっただけという、謙虚な心構え・慎重な行動が大切。